



鳥取・京都旅行 (2014)

2014年3月24～27日、青春18きっぷの旅

はじめに

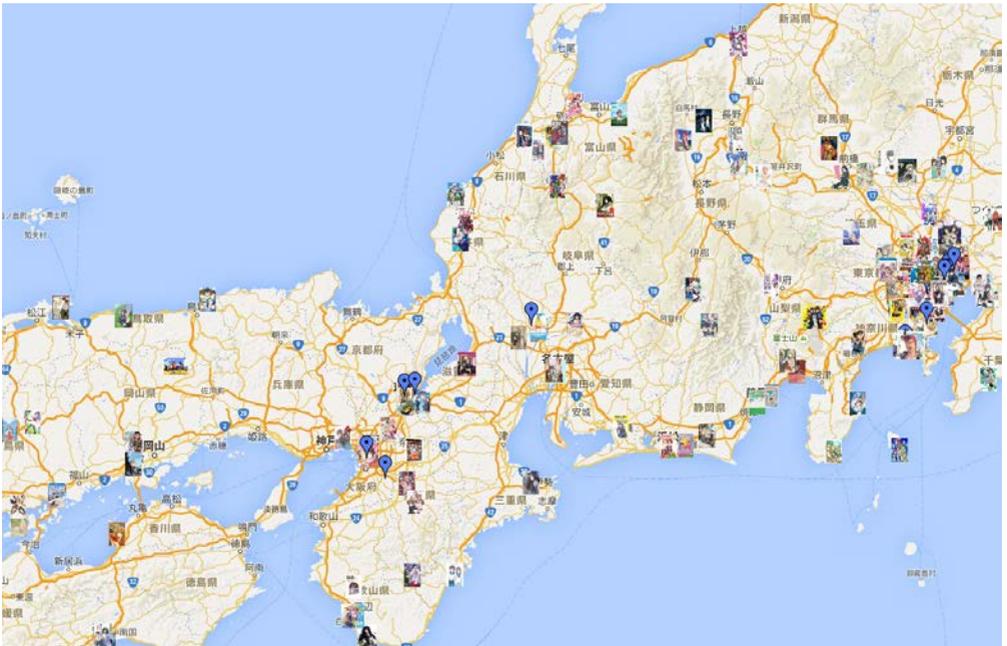
「青春18きっぷ」は5枚綴りである。3月はじめの富山・金沢旅行で2枚を使い、残りは3枚。これで鳥取まで行く。実は、富山・金沢よりも先に計画していた。

青春18きっぷは以前から知っていたが、興味を持ったのは1枚で京都まで日帰り旅行したという人の話を聞いたときだ。これは「ムーンライトながら」という夜行列車は東京始発だが、小田原駅を出発するのが深夜0時過ぎなので、ここから「1日」をはじめると、ほぼ24時間を1枚の切符でカバーできる。この話を聞いたのは20年近く前だったが、ちょっと時間ができたのでやってみようと思いついたのだ。

そして青春18きっぷを使えば、「琴浦さん」というアニメの聖地である鳥取県琴浦町にも安く行けるのではないか。それまで聖地巡礼なんてしたこともなく、興味はあってもお金がかかるだろうと思っていたが相当安く行けるのではないか。そう思って計画を立てた。

ただ、行って帰ってくるだけだと帰りは1日電車に乗るだけで終わってしまう。鳥取に行くなら砂丘も見たいし、他の聖地にも行ってみよう。検索してみると「アニメ・マンガ・ゲーム舞台聖地マップ」というものがあり、さまざまなアニメの聖地が見つけられた。ただ、5枚を連続で使うと日程が長くなるので、ここは3枚分を使うことにし、残り2枚で富山・金沢に行くことにしたのだ。経路を調べるには「えきから時刻表」と「青春18きっぷ(ジョルダン)」が便利だった。

また、持ち物は軽くしたい。富山・金沢に行くときはスマートフォン(Galaxy S3a)に加え、iPad mini、Surface 2、Lavie Zを持って行った。どれがどこまで役立つか知りたかったためだ。iPad miniとSurface 2をやめて、Galaxy S3aとLavie Zを持っていくことにした。Galaxy S3aだけで済むかもしれないと思ったが、結局Lavie Zは役に立った。



アニメ・マンガ・ゲーム舞台聖地マップ

町田～デート・ア・ライブ

出発は3月24日(月)だ。青春18きっぷを使うのは翌日（深夜0時過ぎ）であって、この日にやっておくのは出発時刻までに小田原駅に到着することだけだ。自宅から小田原までは普通に行けばいいので、町田で小田急線に乗り換えることにする。慌てることもないのでゆっくり出発すればいい（と、このときは思っていた）。

聖地マップで町田駅を見ると「デート・ア・ライブ」がある。さらに小田急線をたどると新松田駅近くが「**さんかれあ**」の聖地となっている。そこで「デート・ア・ライブ」と「さんかれあ」をターゲットに決めた。

もっと早く出かけていればあちこち余裕をもってまわれたが、家を出たのは昼過ぎだった。町田駅に着いたのは2時過ぎ。

「デート・ア・ライブ」の舞台探訪を記したブログを印刷して持っていき、近くをまわることにした。この後、松田駅にも行くのであまり長居はできないからだ。

町田には何度か行ったもあるが土地勘があるというほどではないし、よく歩いていたのは北側だった。一方、聖地のポイントはほとんど南側にあった。それでもブログのおかげで意外に迷うことなく見つけることができた。残念ながら、そのブログは今では消えてしまっている。

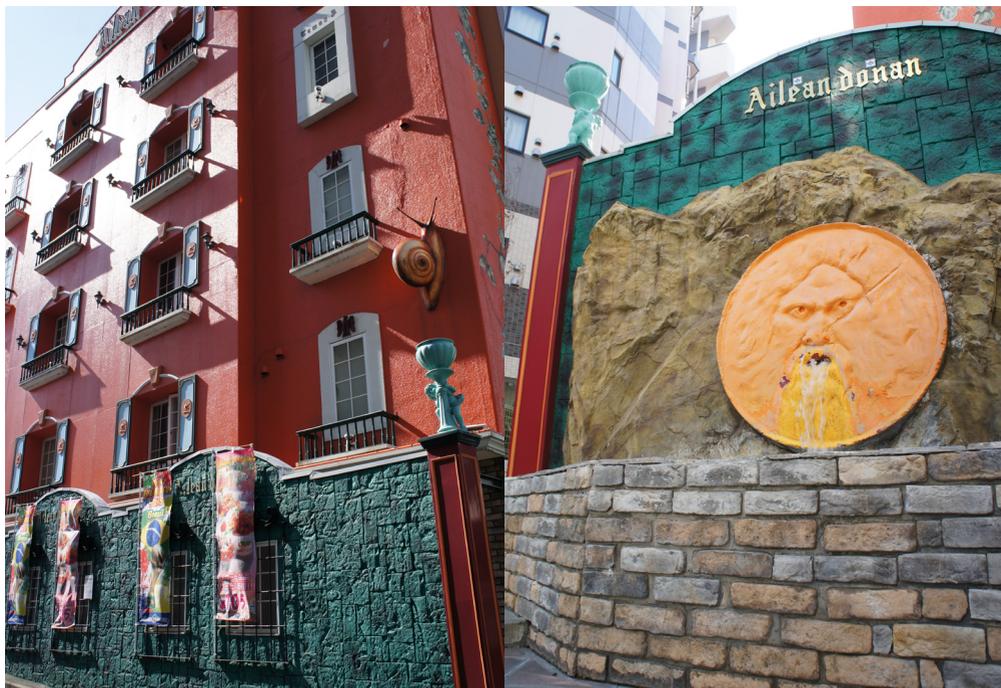
なお、当時「デート・ア・ライブ」は一期が放送されただけで、二期はこの年の4月から放送されることが決まっていた。写真に付けられているカッコ書きの話数は一期のものだ。



待ち合わせ場所になったレストラン（1話）



「はじめてのデート」で巡った場所 (3話)



「デートでないとは言いつらい」ホテル (3話)

「真実の口」はすぐそば (3話)



マルチブッキングゲートの待ち合わせ場所となった町田駅前（8話）



よしのんと出会った町田天満宮（4話）

松田～さんかれあ

町田には1時間もかけず、3時頃には小田急線で町田から新松田に向かった。「さんかれあ」の聖地だ。「さんかれあ」では**紫陽花がキーアイテム**になっているが、この近くの開成町では毎年「あじさい祭」を開催するくらい紫陽花の名所らしい。作品中の「K県足倉郡紫陽町」が神奈川県足柄上郡開成町ということになるのだろう。紫陽花の名所だから、ここが舞台として選ばれたのか、ここを舞台にすると決めて紫陽花をキーアイテムにしたのかはわからないが、ちゃんと意味のある聖地のようだ。



5話で蘭子と後輩の方恋（へれん）が会話しているシーンで登場する駅窓からの眺めや遮断機はすぐに判明したが、カエル型のポールがわからなかった。別の場所にはあったので、工事が終わって場所が移動したのかもしれない。



小田急線新松田駅の窓から（5話）



カエルはいたけど位置が違う（5話）



遮断機（5話）



あちこち探し回ったが見当たらず……

新松田駅から、JR御殿場線の川音川橋梁に向かう。作中に登場する鉄橋の形状は小田急線の橋（酒匂川橋梁）だが、電車がJRのものだそうだ。JRは小田急に比べて本数が少ない。この場所に近づいて、時刻表を調べてもうすぐだと思ったところで電車が通り過ぎていった。次の電車まで15分くらいあるのがわかったので、どうしようか迷ったものの、そのまま待って撮影した。



JR御殿場線、川音川橋梁（1話）

地図を見ながら川沿いを下ったところで、川を挟んで2つの学校があることがわかった。作中では男子校と女子高だが、実際には中学と高校だ。さらにアニメで説明される位置関係とは左右が逆だった。私は駅側（松田中側）の道を通ったが、川を渡る橋がなく、足柄大橋に行きにくくなってしまった。とりあえず主人公の通学路を優先して、酒匂川橋梁付近まで移動。

別に聖地巡礼だけが目的ではない。子供が小さい時は電車好きだったから、ときどきロマンスカーにも乗ったことを思い出して写真を撮った。



小田急線、酒匂川橋梁を通るロマンスカー



十文字橋とあじさいの里への案内

十文字橋は8話で使われていた場所だったが、この時点ではアニメに使われた角度では写真を撮らなかった。かなり遠くなるが、ここを渡って足柄大橋に行くことにする。



通学路だけれど、だいぶ遠う (1話)



小田急線、酒匂川橋梁を間から



開成水辺スポーツ公園の公園管理センター



酒匂川ふれあい館

長々と歩いて、足柄大橋に到着。近くには「酒匂川ふれあい館」があるので、よい目印になった（ただし、開館は土日の午前10時から午後3時）。この近所も5話で使われているのだが、アニメを見直すと「蘭子はどこに行こうとしてたのか」が疑問になるほど何もなところだ。



蘭子と方恋が歩いていた足柄大橋（5話）



ふたりが降りてくる道路（5話）



方恋が携帯の写真を見せていた場所（5話、8話、左右反転して使用）



立ち止まって会話（5話）



ひとりで歩きだす蘭子 (5話)



あじさいの里をアピール



酒匂川と小田急小田原線

紫陽花の名所として壁に紫陽花の絵が描かれているところもあった。6月には町でイベントも催すようだ。だんだん暗くなってきたが、せっかくなので撮りそこねた十文字橋をアニメの角度で撮影。ここは蘭子が銭湯に向かう場面で使われている（BDの4巻31:29～）。



十文字橋（8話）

暗くなってきたが、このまま小田原に向かってもすることはないので、高台の方へも行ってみることにした。坂道を登っていくと、高架道路に向かう階段があったので登ってみた。壁が高くて直接見えないけれど、手を伸ばすとカメラを壁の上に出して撮影することはできた。



国道246から見た松田町～開成町



高速バス停

JR松田駅を通り過ぎ、小田急新松田駅まで戻り、小田原に向かった。ここまで随分歩き回った気はするが、まだ7時過ぎだ。



高速バス停近くから見た松田町～開成町



小田急、新松田駅から小田原へ

小田原

小田原に到着したのは午後7:30頃。「ムーンライトながら」が小田原を出るのは午前0:30だから、まだ5時間もある。とりあえず夕食をとるためにロイヤルホストに行くことにした。ドリンクバーはあるし、全席禁煙だし、少し遠いが時間はたっぷりあったからだ。



しかし、もともと早食いだし、ノートパソコンのバッテリーもそんなには持たないのに、4時間以上をここで費やすのは辛い。結局、駅前のネットカフェに行くことにした。



日付が変わった頃、ネットカフェを後にし、小田原駅に向かった。



ムーンライトながら～電車の乗り継ぎ

すでに2日目だ。小田原駅には、「青春18きっぷ組」っぽい若者たちがあちこちにいた。「ムーンライトは、ガラガラで運行しているという問題」を聞いていたが、そんなことはなかった。

また、私は通路側の席だったが、窓側の人は不在だった。そしてその“不在の人”は反対側の通路側に座っていた。二人で旅行するのに、二人で同じ列の両端の席を予約したらしい。両端を取っておけば間に人が来なければラッキーと思っていたのかもしれない。席の交換を頼まれたので了解し、窓側の席になったが、外は真っ暗なので景色がいいということでもない。





「ムーンライトながら」は浜松で少し長めに停車する程度で、それ以外の駅の停車時間は短い。5:51に大垣に到着すると「大垣ダッシュ」と呼ばれる席取り競争がある。私は乗車位置が階段から遠かったこともあり、早々と断念して駅名看板などを撮影していた。

6:29に米原に到着し、また別の電車（姫路行・新快速、6:31発）に乗り換えるのだが、これは向かい側に乗るだけだから、流れに逆らわず座席を確保。もっとも、こちらは割と余裕があるので、座れなかった人はあまりいないようだ。

7:29に京都。次は福知山行に乗るのだが、少し余裕があるので京都駅で見つけたマネケンで朝ごはん代わりのワッフルを購入。ホームで食べた。初マネケンだ。





3月限定のキャラメルショコラ・ワッフル



福知山行の電車に乗り換え

園部で少し長めに停車していたが、順調な運行で予定通り福知山に到着。次の城崎温泉行の電車への乗り換え時間は2分しか余裕がなかった。そして鳥取行に乗り換えて、13:57に鳥取に到着。



だが、これで終わりではない。すぐさま米子行の「とっとりライナー」に乗り換えて、1時間20分ほどかけて、琴浦町観光協会のある赤碓駅にたどり着いたのが15:21である。



とっとりライナー



コナン駅って……

琴浦町～琴浦さん

午後3時20分、赤碕駅に到着。ほぼ休みなしで15時間かけて、ついに「**琴浦さん**」の聖地に着いたのだ。富山行きの電車の窓から「Another」に出てきた観覧車を撮影したり、金沢駅の観光協会に貼ってある「花咲くいろは」のポスターを撮影したのとはレベルが違う。ここを目的地としてはるやってきた。ちなみに空路を使えば自宅の最寄り駅から始発でも午前10時前に到着するし、陸路でも新幹線や特急を乗り継げば半分の時間で済む。よく「金で時間を買う」という表現があるけれど、青春18きっぷを使って鈍行を乗り継ぐのは「時間を売っている」ようなものだ。





余談だが、鳥取駅で「とっとりライナー」に乗り換える前に考えることがあった。翌日の天気予報で降水確率が90%になっていたのだ。これで残りの10%に期待する人はいないだろう。「この日に琴浦町まで行って、鳥取まで戻り、翌日に砂丘を見に行く」というのが当初の予定だった。だが早い時間に鳥取を出発する予定でもあった。鳥取は11:10発の電車で京都に戻る予定だったから、間に合わせるためには10:10砂丘発のバスに乗る必要がある。

一方、平日はバスの始発が9:10だ（砂丘には9:32着）。これだと砂丘での滞在時間が40分弱しかない。バス停から砂丘に行くにも時間がかかるだろうし、バスが遅れたら、とんぼ返りになってしまう。だが、鳥取駅にはレンタルサイクルがあった。8時から受け付けているらしいから、多少労力をかけても自転車の方が滞在時間が長くなるんじゃないかと思ったのだ。

だが、雨で自転車というのは辛い。まだ雨が降っていないこの日に砂丘に行けばいいのだが、一方の琴浦町も歩いてまわるつもりだったから、翌日、雨の中を歩き回るのは辛いし、聖地巡礼の写真が雨なのも残念だ。そもそも11:10に間に合うように戻ってくるには観光協会を後回しにする必要があるし、今回の主目的は砂丘よりも琴浦町である。だから、砂丘を諦めて琴浦町に行くことにしたのだ。鳥取砂丘は「滞在時間が短くてもバスで行けばいい話」だったかもしれないけれど。

そもそも、この日も夕方から雨のおそれがあったので、赤碕駅に着いて、早速観光協会に向かった。1年前の作品で、どれくらい「琴浦さん」ネタがあるだろうか不安だったけれど、玄関前には琴浦さんが描かれたバスが停まっていたし、中にも色々飾られていた。ポスターは持ち帰れるそうだ（いただいた）。

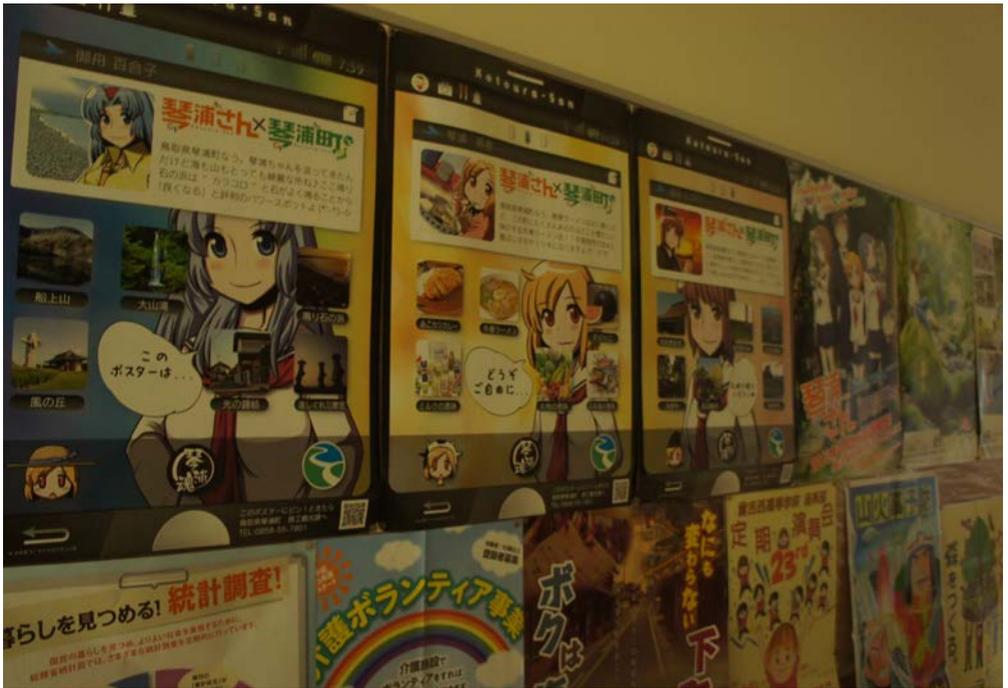
「琴浦さん」の場合は、そもそもアニメの舞台という意味での“聖地”ではない。2駅隣にある浦安駅がアニメの「琴浦駅」として使われているが、もとは名前の由来になっただけで、アニメ放送時の提供画面やコマーシャルで景色が使われていた程度である。



琴浦町観光協会のある琴浦町赤碓分庁舎に到着



入口に並べられた「琴浦さん」グッズ



ポスター、いただきました



観光協会の前にも琴浦さん関連グッズ

もともと徒歩でまわるつもりだったから、雨が降るかもしれないので、「河本家住宅」と「光の饅絵」は序盤で断念。まずは「鳴り石の浜」に向かった。念のために「ポプラ」というコンビニでビニール傘とレインコートを購入。天気次第では、レインコートを着て鳥取駅から砂丘まで自転車で行こうと思ったのだ。浜に降りて写真を撮り、来た道に戻って「波しぐれ三度笠」に向かった。



鳴り石の浜（4話、提供バックなど）



琴浦町観光支援販売機



花見潟墓地

そして「波しぐれ三度笠」に到着。「琴浦さん」のCMで「モ、モアイではありません……」とコメントされていた場所である。ライトアップの設備もあるらしいが、夜までは待てない。



波しぐれ三度笠 (6話、提供バックなど)



波しぐれ三度笠 (CM)

続いて神崎神社に移動。スマートフォンで“崎”の字が入力できなくて検索しにくかったが、あちこちに案内板があって助かった。お参りしつつ、それっぽいところを撮影して移動。



神崎神社（9話、提供バックなど）



神崎神社（CM）

次の目的地は「物産館ことうら」である。すでに午後5時をまわっていたが、朝食食べたきりで休みなく移動し続けていた。ここでコマーシャルでも紹介されたカレーとラーメンを食べようと思っていたが、着いてみると食事の営業は終了していた。午後3時までの営業で、赤碓駅に着いた頃には終わっていたわけだ。地元ブランドらしい飲むヨーグルトとシュークリームを買って食べた。



物産館ことうら（着いたのは裏口側だった）



こちらにも「琴浦さん」グッズ



とっくに営業終了していた「琴浦うまいもんや」



これが昼食

6時で閉店。また歩いて浦安駅に向かうことにしたが、ちょっと遅かった。急がないと琴浦駅、いや浦安駅にたどり着く前に暗くなってしまう。実は明るいうちに浦安駅を撮影するチャンスはあった。浦安駅に着いたとき「3分ほど停車します」というアナウンスがあったのだ。駅の出口は跨線橋を渡った反対側だったが、「青春18きっぷ」を持っているのだから、一度出ても入ることができる。走れば間に合うかどうか、いやしかし他の人を押しのけては出られないだろうとか、もし乗り遅れたら次の電車まではだいぶ時間が空いてしまうとか考えているうちに時間がなくなってしまった。この時、走っていれば思い残すこともなく済んだかもしれないのだが、時すでに遅し。

実際、「物産館ことうら」から「浦安駅」はだいぶ距離がある。途中で「琴浦ぐるめストーリー」や「琴浦あごカツカレーバーガー」というのぼりを見つけたときは、もう諦めて、ここで食事を取ろうとも思った。「あごカツカレーバーガー」は作者のえのきづさんが琴浦町を題材にしたマンガのネタにもされていたものだ。だが、このときは、まだ少し明るかったので望みを持ってしまったのだ。後ろ髪をひかれる思いで浦安駅へ急いだ。

だが、着いた時にはだいぶ暗くなっていた。ESP研が到着したのも夕方だったけれど、それよりもずっと暗くなっていた。もう一度レストランに戻って……という気力は残っていなかった。



さらば、物産館ことうら



「琴浦あごカツカレーバーガー」ののぼり



すでに暗い浦安駅（琴浦駅）

浦安駅を後にして、ふたたび鳥取駅に戻った。夕食を食べていなかったので、駅近くのモスバーガーに入った。一人で居酒屋に入る気はしないし、他にあまり選択肢がなかったのだ。モスバーガーの営業終了時刻が迫っていたのも、他を探し回る手間を諦めさせたといえる。



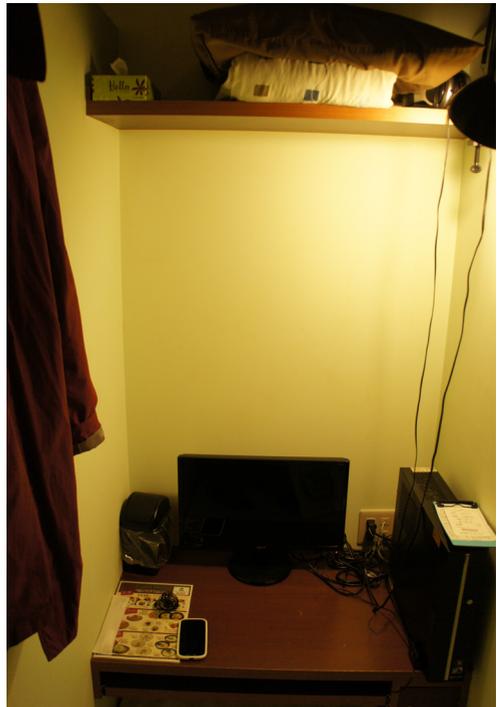
鳥取駅



夕食

食事の後、コインロッカーの位置やレンタルサイクルの場所を確認した。レンタルサイクルの営業時間は「8時半からですけど、まあ8時くらいならいいですよ」とのことだった。いや、鳥取県観光連盟のサイトに8時からって書いてあるんですけど……。

その後、電話で予約しておいたネットカフェに向かった。安いビジネスホテルにでも泊まるつもりだったのだが、ここはネットカフェでありながら旅館業営業許可を取得しているということで、少し魔が差した。一晩（12時間）で2,180円。安いホテルは3,500円くらいからあるので、そこまで値段にこだわるつもりはなかったが（何しろ東京から出かけているのだ）、「青春18きっぷ」利用者らしく安さを狙ってもいいかと思ったのだ。この値段でシャワーも利用できるし、フリードリンクはある。時間をつぶすものもある（それより眠ろうと思ったが）。ただ、やはり落ち着いて体を休められたわけではない。



鳥取砂丘

2日目の朝だ。前夜、なかなか寝付けなかったが、それでも朝7時頃に起きようアラームを設定しておいた。朝になったら他のところで6時頃からアラームが鳴りはじめた。「止めろよ!」と思ってる間に起き出す人が増え、「あとちょっと寝る」どころではなくなっていた。ゆっくりと起きて荷物をまとめ、ネットカフェを出て駅に向かった。雨は降ってはいたものの強くはなかったので、これなら自転車で砂丘に行けると確信した。昨日買っておいたレインコートが役に立つ!

カバンは邪魔になるので傘とデジカメ以外はコインロッカーにしまった。そしてレンタルサイクルの受付がはじまる8時までには少し時間があるので、駅のドトールで朝食をとった。

このときカメラのバッテリーを充電するのを忘れたことに気付いた。ドトールのカウンター席にはコンセントがあったので、もう少し早ければ充電器をロッカーにしまい込むこともなかったのだが、気付くのが遅かった。スマホにもカメラは付いているが、やはりデジカメで撮影する方がずっと綺麗だ。

もっともTwitter に投稿するためスマートフォンでも撮影していたし、悔やんでも遅い。そしてドトールを出た。



荷物はロッカーへ



鳥取駅前の花時計



鳥取駅



朝食

8時を過ぎたのでレンタルサイクルを申し込みに行ったが、営業を始めたばかりという感じではなかった。もともと普通に駐輪場の営業があるようなので、もっと早く行って頼み込んでいれば、そのまま貸してもらえたかもしれない。とにかく、雨が弱いのが幸いだった。

ただし、私のように「どうしてもバスの営業が始まる前に移動したい」という理由があるのでもなければ、自転車で砂丘に行くことはお勧めしない。借りられる自転車はいわゆるママチャリだし、往路の上り坂がけっこう長いのだ。長くても5割増くらい時間（30分程度）で済むだろうと思っていたが甘かった。途中で止まって写真を撮りながらという事情はあるが、40分ほどかかった。

晴れていたなら白兔海岸にも行こうかな、とか思っていたが甘すぎた。途中で投げ出すわけにもいかないので、ヘトヘトになりながらたどり着き、「砂丘会館」の向いにある「鳥取砂丘ジオパークセンター」に自転車を置き、砂丘に向かった。



借りた自転車



鳥取砂丘へGo!



上り坂がけっこう長い



鳥取砂丘前のトンネル



トンネルを抜けると砂丘の看板が



砂丘会館



記念撮影（ここは砂丘会館よりも手前の場所）

ああ、子どもの頃、何度「鳥取砂丘」という言葉を聞いただろう。教科書にも出てくる観光名所である。自分がこの場所に来ることがあるとは考えもしなかった。というか、田舎者で、東京に住んでいること自体が考えもしなかったことだけれど。

子どもの頃は砂丘と砂漠の違いがちゃんと理解できていなかった気もするが、この日のように雨が降っては勘違いのしようもないくらい「砂漠じゃない」感がある。緑がかっているところもあるし、水が溜まっているところもあった。何しろ見回せば、そこそこ範囲がわかる程度の広さである。せっかく来たのだから、あちこち歩き回ってみた。それほど遠くまで行ったわけではないが、少しばかり大回りをして帰った。

















ジオパークセンターにも寄って、「鳥取砂丘」と書いたタオルが自動販売機で売られていたので買ってみた。砂丘会館では「あごすり身揚げ」があったので、前日食べ損ねた「あごカツカレーバーガー」を思い出しつつ、それと梨ドリンクを買って食べた。





鳥取から京都へ

鳥取砂丘からの帰り道は一部を除けば平坦か下り坂なので往路より楽になるはずだったが、雨が強くなってきた。本当に自然は容赦がない。帰り道にどんなトラブルがあるかわからないので、少し早めに出ることにした。

これなら滞在時間が短くてもバスで往復した方がよかっただろう。往路だけタクシーを使えば、もっと自由な時間が増えた。taxisite で調べると「¥1,990 (小型車) ~ ¥2,240 (中型車)」となっている。自転車レンタル (500円) とレインコート (399円) を思えば、いやその後の移動を思えば、それくらい出費してもよかった。だが、いい思い出になった。

鳥取駅に戻ったのは10時半頃。ロッカーから荷物をだして、ドトールに入り、出発までの少しの間にカメラのバッテリーを充電した。11:10に鳥取を出発。ふたたび普通電車を使った長い移動だ。できるだけ効率のよい時間と経路を選んだが、それでも京都に着いたのは16:51。明るい時間に長距離移動するのはもったいないのだが、日が暮れる前に京都に移動しておきたかったのだ。



鳥取駅を出発



こんなところに夢千代日記の舞台があった



京都駅に到着

出町柳～有頂天家族、たまこまーけっと

もともと京都では「いなり、こんこん、恋いろは。」の聖地、伏見稲荷に行こうと思っていた。大空直美さんの主演デビュー作だ。それを調べていて、京阪線で「いなり、こんこん、恋いろは。」のフリーチケットを販売していると知ったのだが、これは伏見稲荷駅では売っていない。さらに調べると出町柳駅では売っている。こちらは「有頂天家族」の舞台である。

「有頂天家族」は森見登美彦の作品で、私は「四畳半神話大系」



観光案内所は頼もしい味方



の方が好きだが、このときは未見だった。

「有頂天家族」は京都のあちこちが舞台になっているのだが、とりわけ1話の最初から出町柳の場面が多い。それならばと、この日は出町柳駅近辺に行くことにした。



京都駅

東福寺から京阪線に乗り換えるのだが、その電車の全面に「いなり」に出てくる三条京子のヘッドプレートが付いていた。そんな全面的なタイアップしてるのか、と思ったが、全部の電車に付いているわけではなさそうだ。プレートが付いていた電車を見たのは、これっきりだった。



「いなり、こんこん、恋いろは。」のヘッドプレート（他に何種類もあったようだ）



出町柳駅

出町柳駅に到着して、フリーチケットを買い、商店街の位置を確認した。近くに下鴨神社があったので、明るいうちにとそちらを先に訪れてみたが、参道がやたらと長く、着いたのは午後6時少し前になってしまった。入口に人が立っていて何かと思ったら、午後6時で閉門するらしい。慌てて中を撮影して表に出た。



「いなり、こんこん、恋いろは。」フリーチケットのポスター



「有頂天家族」で狸が逃げていた出町橋



下鴨神社の参道



下鴨神社楼門（「有頂天家族」）









続いて「出町柵形商店街」に向かった。実は「出町柳」なので「出町柳形商店街」なのかと思っていたが違った。「出町柵(ます)形商店街」だった。恥ずかしながら、ずっと間違っただけでツイートしていたようだ。

ここは「たまごまーけっと」の「うさぎ山商店街」のモデルでもある、ということ商店街にあったポスターで思い出した。後で見直したら聖地マップでもすぐそばに表示されていた。この年の春に映画「たまごラブストーリー」が上映されるのは知っていたが、事前に調べていなかったで、たいした写真は撮れなかった。「たまごまーけっと」はあまり評価していないが、映画は面白い。

すでに時間も遅く暗くなってもいたが、2つのアニメの聖地巡礼が一度で済んだ。









事前に知っていたのだが、京阪大津線で「中二病でも恋がしたい」のラッピング電車が走っているというので見に行こうと思っていた。しかし、すでに暗くなっているし、電話で確認したら、あまり遅い時間までは運行していないらしい。次の日の午前の予定も聞き、9時頃までは運行しているというので、それなら翌日の方がよいだろうと思い早々と河原町の宿泊先に向かった。



予約していたわけではなかったが、「自遊空間」というネットカフェチェーンの店があった。電車で行けばよかったのだが、なんとなく歩いてみようと思ったのが間違いで、意外に遠かった。

ただ、割と早い時間だったせいか、「自遊空間」は込んでいるようすはなかった。ただ、いったん入ってしまうと一時的に出るための手続きが面倒らしい。「自遊空間」は基本的に後払いシステムなのだが、外出するときはいったんデポジットとして予定している時間に相当するだけの代金を支払い、戻ってきたら、返金してもらうのだそうだ。そんなことなら、先に何か夕食をとってから利用しはじめればよかったが、それは諦めて、店内で食事を頼んだ。ハンバーガーのパンズは「何かの冗談？」と思うくらい堅かった。

「自遊空間」はチェーン店だから、他より多少高くてもサービスがいいと期待していたが、そういうものでもなかった。驚いたのはパソコンがWindows XP だったことである（逆に値段はそれほど高いわけでもなかった）。鳥取の（チェーンでない）ネットカフェはWindows 7 だったが、これサポート切れても使うつもりなんだろう。Internet Explorer もプライベートブラウズがないし、まったく使う気になれなかった。そうでなくても、据置の共有パソコンなどあまり使う気にはならないが、Lavie Z を持って行ってよかった。明日は早い時間から出かけたかったので早く寝たかったのだが、こういうときにネットカフェは辛かった。夜遅くまで（少なくとも3時頃まで）ペア席で喋り続けている人がいた。どこからか音が漏れているのか小さな音で音楽が聞こえてくるのは店内BGMだとわかったが、それに合わせて鼻歌を歌っている人もいた。



伏見稲荷～いなり、こんこん、恋いろは。

あまり落ち着いて寝られなかったが、朝4時半頃に起きた。伏見稲荷へ行くのに祇園四条駅の始発(5:05)に乗りたかったからだ。「いなり、こんこん、恋いろは。」の聖地巡礼ブログで、伏見稲荷は平日でも人が多く、写真を撮るなら早朝が狙い目というアドバイスがあった。それに、大津線の中二病ラッピング電車を確実に見に行くためには、早めに伏見稲荷を出る必要があった。

もう一点、前日は午後7時半頃に「自遊空間」に入ったため、4時半までに出れば「9時間パック」が適用される。ホント、夕食



を外で食べてから入れば、もう少し落ち着いていられたのだが。

始発までは少し時間があるので、朝食をとるためにマクドナルドに入った。まだ朝マックをやっていない時間なので、ダブルチーズバーガーセットを注文した。しかし出来上がりまでに少し時間がかかり、慌てて食べることになった。熱かった、というかポテトが多かった。



朝マックは5時から



祇園四条駅で始発に乗る

ちなみに「いなり」のフリーチケットを使ったのは、この日である。祇園四条駅から伏見稲荷駅は乗り換えなしで10分ほどだ。出発した頃は真っ暗だったが、到着してもまだ真っ暗である。



駅には、やはり聖地巡礼しているらしい3人組の若者がいた。なぜ、それとわかったかという
と、駅に設置してあった「伏見いなり」のパネルと一緒に写真を撮っていたからだ。3人で写真を
撮ってあげて、私も撮ってもらった。彼らとは千本鳥居を歩いているときに、もう一度会った。



いくら人が少ない早朝が狙い目と言っても、こんなに暗くては写真が撮りづらいのだが、そこは明るくなった後の下見ということで、あちこち歩き回った。



伏見稲荷大社



伏見稲荷大社・楼門

伏見稲荷大社のある稲荷山は、全行程4kmで、2時間かかるそうなので、それは諦めた。「いなり」にもしばしば登場する千本鳥居と呼ばれる鳥居の並びは壮観である。つい、設置するのにいくらくらいかかるんだろうと思ってしまおうのだが、ちゃんと値段が記された看板があった。



伏見稲荷大社・本殿



伏見稲荷大社・千本鳥居

ちなみにアニメの1話は、犬（実際には神使の子狐）が溺れそうなところを主人公のいなりが助けず濡れになるのだが、とても犬が溺れたりしそうにない場所だったし、落ちて濡れになるほど水はなかった。



「いなり、こんこん、恋いろは。」で狐を助けた場所（1話）



少し明るくなった伏見稲荷大社・楼門



伏見稲荷大社・JR稲荷駅側の入口



伏見稲荷大社・千本鳥居



「いなり、こんこん、恋いろは。」の通学路っぽいところ



伏見稲荷大社・講務本庁



伏見稲荷大社・千本鳥居の入口



伏見稲荷大社・千本鳥居の中











2時間ほどかけて歩き回っているうちに、だんだん明るくなってきた。締めくくりで、もう一度、写真を撮って伏見稲荷を後にした。



京阪線・伏見稲荷駅（「いなり、こんこん、恋いろは。」で墨染さんが通う駅）

京阪電車大津線～中二病でも恋がしたいラッピング電車

京阪線の浜大津に向かい、「中二病でも恋がしたい!」のラッピング電車を待つ。聞いておいた時刻をもとに、いったん終点の石山寺駅まで行き、ふたたび京阪石山まで戻ることにした。ただし「いなり」のフリーチケットは大津線では使えないので、ICカードで乗車するとしたまま戻ってしまうと不正乗車になってしまう。浜大津の駅で、別のフリーチケット(1000円)があると聞き、それを買うことにした。お得な乗り方ではないが、これで石山寺駅で改札を出なくてもよくなる。



いろんなラッピング電車がある(これは滋賀県警)



「中二病でも恋がしたい!」のラッピング電車が到着



「中二病でも恋がしたい!」のラッピング電車









男山

せっかくだから、もう少し乗ってしようかと思いつつ、この後の予定を考えて京阪石山で降り、JRに乗り換えた。このままでは1,200円もする「いなり」のフリーチケットを活用できていない。そこで「男山ケーブル」とやりに乗ってみようと思ったのだ。



男山ケーブル



男山山上駅

男山ケーブルは3分ほどの短い区間で、この日は15分ごとに運行していた。10時ちょうど発のケーブルカーに乗って男山山上まで行き、駅から出て階段を上って展望台から景色を眺め、階段を下りて、乗ってきたケーブルカーに乗って山を下りた（10時15分）。「乗ってみた」以外のことはほとんどしていないが、なんとなくチケットを有効活用できた気がした。



展望台へ



展望台からの眺め

名古屋

京都に戻って、次は名古屋に移動する。名古屋はあまりアニメの舞台になることは少ないが、「うさぎドロップ」の聖地である。ただ、今回は京都からの移動で時間が限られていたので、これは諦めた。その時間は、卒業してからほとんど訪れたことのない母校に行ってみようと思ったためだ。26年の間にすっかり様変わりしていた。大学時代の同級生が教授をやっていて、事前にアポは取っていなかったが会えた。おかげで色々な話が聞けた。



名古屋工業大学



大学内にある古墳

当時、私が入学した学科は、この大学で入試における偏差値が一番高かったのだが、今は最低なのだそう。入学定員が増えた（当時の三倍）、他の大学にも同じような学科が増えたといった、それなりの理由があるらしいが、なんだか残念だ。そして「自分で好きでプログラミングする奴なんて、めったにいない」らしい。もっとも、当時も「好きでプログラミング」する奴なんてそんなにいなかった。あと、トヨタは「完全週休二日制」が嫌われて、同期では誰も入社していないと思っていたが、入社した人はいたらしい。しかも、けっこう出世しているそう。へえ。あと国立大学の先生は、とっくに公務員ではなくなっていて、大学が雇い主という立場になるらしい。毎年予算が削られた上に、アベノミクスでさらにバツサリ予算が削られそうという話だった。

入口には、メイちゃんというデジタルキャラがいろいろ案内してくれるそう。 「ちょっと恥ずかしいよね」（旧友談）。突然の訪問にもかかわらず、時間をとってくれた彼のおかげで、ずいぶん楽しい時間を過ごすことができた。

ここに来たもう一つの目的が学生時代に下宿していたそばにあった店で「みたらし」を買うことだった。子どもの頃からみたらしが大好きで、親戚の人からは「みたらしあげとけば、喜んでくれたから楽だった」とか言われていた。自分でお金が自由になったら、たらふくみたらしが食べたいと思っていて、下宿時代には10本くらいまとめて食べるということをととききやっていた。そして、上京してガッカリしたことのひとつに、みたらしが名古屋で食べていたものとは別物だったということがあった。しかも高い。東京のみたらしは「和菓子」の一種であり、妻に言わせれば「それは“醤油団子”ってことでしょ」だそう。

だが、今日はそのみたらしが食べられるはずだ。店は営業していた。かつてチェーン店だった、その店は今は独立してやっているそう。ふたたび10本まとめ買いしようと思っていたみたらしは7本しかなかったの、それを買占め、お好み焼きと大判焼きも買った。みたらしは1本60円、お好み焼きは220円、大判焼きは80円だった。その級友の部屋で食べた。

昔と同じ味でとても嬉しかった。

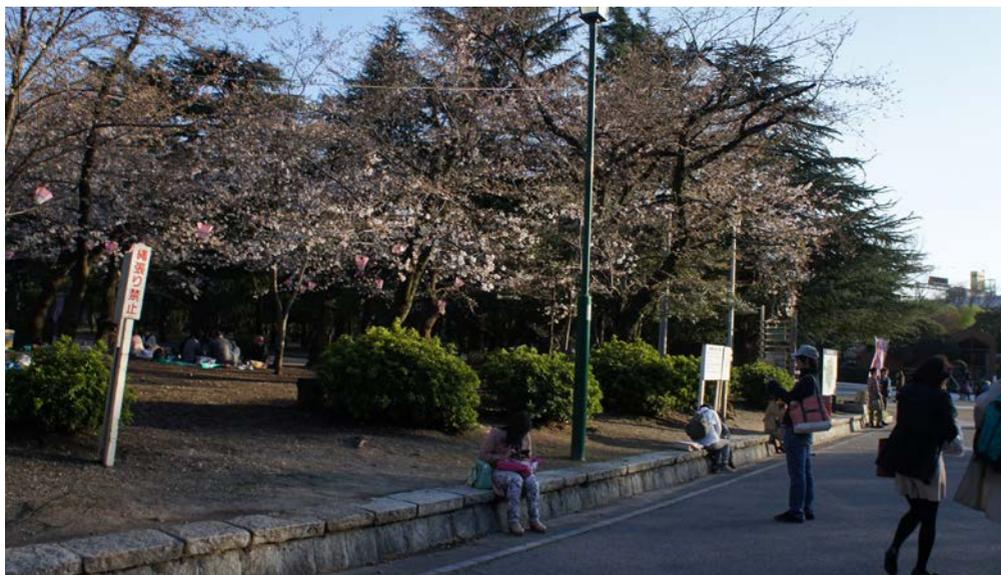


帰京

3時間ほど滞在したが、そろそろ帰京しなければならない。それどころか時間を間違えていたことに気付いた。もう少し遅くても間に合うのだが、それだと東京や品川をまわらなければならず効率が悪い。横浜から横浜線を通して帰宅の方がよいのだが、それに間に合う時間が結構迫っていた。名古屋で慌てて東海道本線に乗り換え、色々乗り継いで帰宅。かなり疲れて、その後数日は大イビキをかきながら爆睡していたらしい。でも、大変充実した一人旅だった。



名古屋市公会堂



鶴舞公園は花見の時期



名鉄の電車



全行程終了



鳥取・京都旅行(2014)

2014年3月24～27日、青春18きっぷの旅

鳥取・京都旅行(2014)

2014年3月24～27日、青春18きっぷの旅